

世界を驚かせ魅了し続ける舞踊団



カラフルで豪華な民族衣装



モイセーエフバレエとは

1937年に20世紀最大の舞踊家・バレエ振付師のひとりイーゴリ・モイセーエフ(1906-2007)により結成。民族舞踊の解釈と紹介を行う世界初のプロフェッショナル舞踊団。世界のバレエ史を変えたと言っても過言ではない。

バレエ団が第一の原則としているのは継承、そして伝統と新機軸の芸術的解釈。モイセーエフは初期の団員たちに、当時存在していたフォークロアの芸術的編集をするよう命じ、彼らは民族学的調査のため各地に散った。団のレパートリーとして舞台用に新たな命を吹き込まれたフォークロアは、何世代にもわたって世界中の観客の中に残っている。



フェスティバル ロシア文化フェスティバル
2020 IN JAPAN



ロシア文化フェスティバル 2020 IN JAPAN

モイセーエフバレエ

Ballet Igor Moiseyev

イーゴリ・モイセーエフ記念国立アカデミー民族舞踊アンサンブル

Государственный академический ансамбль народного танца имени Игоря Моисеева

優美な群舞!



公演日程(予定)

2020年

10月27日 火 福生市民会館大ホール

28日 水 茨城県・ザ・ヒロサワ・シティ会館 (茨城県立県民文化センター)

29日 木 栃木県・小山市立文化センター大ホール

30日 金 東京・新宿文化センター大ホール

招請: ロシア文化フェスティバル日本組織委員会 & ロシアン・アーツ

後援: ロシア連邦外務省、ロシア連邦文化省、駐日ロシア連邦大使館、ロシア連邦協力庁、口日協会、INARTEX



MINISTRY OF CULTURE
RUSSIAN FEDERATION

2020年10月、25年ぶり訪日公演

歴史の魅惑的な民族世界への招待

公演プログラム(予定)

【第一部】

- ①ロシアの踊り「夏」
- ②カルミック人の踊り
- ③ギリシア舞踏組曲「シルタキ」
- ④タンゴ「デル・プラータ」



【第二部】

- ①シチリアのタランテラ
- ②アドウイゲの踊り「トリヤパテト」
- ③モルダヴィア人の滑稽な踊り「タバケリヤスカ」
- ④メキシコ舞踏組曲「サバテオ」「アヴァリュリコ」
- ⑤アラゴンのホタ
- ⑥アルゼンチンの牧童の踊り「ガウチョ」
- ⑦水兵の踊り「ヤーブロチコ」



acrobatiqueな



プログラム解説

【第一部】

①ロシアの踊り「夏」

(作曲: V.ジムイホフ、S.ガルベリン 振付: イーゴリ・モイセーエフ)

モイセーエフによるロシア民族舞踏の数多いアレンジの中で、ロシア人の国民性の様々な面が見られる作品です。組曲「四季」からのこの踊りは、田舎の人々の特徴とされているユーモア、茶目つけ、ロマンチックなところ、抒情的な性格などを生き生きと描き出しているものです。舞台は収穫祭。村人たちは老若男女若い恋人二人を祝うために集まっています。

②カルミック人の踊り

(作曲: P.ルイバコフ 振付: イーゴリ・モイセーエフ)

今まで、カルミック人はヴォルガ川の河口近くの広大なノガイステップを家畜とともに移動する遊牧民でした。彼らは中央アジアから移動してきたと考えられていますが、彼らの歴史や文化はあまり詳しく知られていません。カルミック人たちの踊りは、彼らの生活と命をつないできた動物や鳥たちとの深いつながりを感じさせられます。この踊りでは、空を飛ぶ鷺、駆ける馬、求愛の季節の雄牛の戦いの様子が表現されます。

③ギリシア舞踏組曲「シルタキ」

(作曲: M.テオドラキス 振付: イーゴリ・モイセーエフ)

これはギリシアの作曲家ミキス・テオドラキスの依頼でモイセーエフが振り付けた組曲です。モイセーエフのギリシア旅行中に村の

結婚式に参列した折に見た地方の民族舞踏をベースに作られています。「シルタキ」はギリシア語で群舞のことです。

④タンゴ「デル・プラータ」

(作曲: P.パウロス、L.ルビンシュテイン、O.エスピシト、E.スタムボニ、M.モリス、V.グレコ、H.ブラサ、A.ピアソラ
編曲: アンドレス・セラフィニ 振付: ローラ・ロアッタ)

アルゼンチンの港町ブエノスアイレスで始まったといわれるタンゴの現在にいたる歴史を、モイセーエフ率いるアルゼンチンの振付師ローラ・ロアッタにより構成された振付で表現しています。タンゴ「デル・プラータ」は、イーゴリ・モイセーエフの死後、アカデミー民族舞踏アンサンブルにとって最初の大きな作品でした。

【第二部】

①シチリアの・タランテラ

(作曲: S.ガルベリン 振付: イーゴリ・モイセーエフ)

タランテラはイタリア南部に伝わる8分の6拍子の活発な舞曲。ここではシチリア島の伝統的な民族舞踏の要素をベースに振付けられました。この舞台には馬車が登場します。

②アドウイゲの踊り「トリヤパテト」

(アドウイゲ人の民族リズム 振付: アスラン・ハジャエフ)

トリヤパテトまたは「トリヤパテトをはいて踊る」はアドウイゲ人の昔の靴をはいて踊る、驚くほど優美なダンスです。「レバテ

モイセーエフバレエ

Ballet Igor Moiseeva

イーゴリ・モイセーエフ記念国立アカデミー民族舞踏アンサンブル

Государственный академический ансамбль народного танца имени Игоря Моисеева



民族ダンス

⑤アラゴンのホタ

(作曲: M.グリンカ 振付: イーゴリ・モイセーエフ)

アラゴンのホタは18世紀末にスペインのアラゴン地方で生まれたペアで踊るスペイン舞曲です。このホタの中ではクラシックに分類され、スペインで最も知られています。ロシアの作曲家ミハイル・グリンカの曲「スペイン序曲第一番ホタ・アラゴネーサ」に合わせたモイセーエフ振付のアラゴンのホタは、モイセーエフの最も有名なレパートリーの一つです。

⑥アルゼンチンの牧童の踊り

「ガウチョ」

(作曲: N.ネクラソフ 振付: イーゴリ・モイセーエフ)

アルゼンチンの牧童たちが自分の腕前を披露する、三人の男性ソリストの踊りです。薄闇の中で乗馬靴の拍車が鋭く光ります。

⑦水兵の踊り

「ヤーブロチコ」

(作曲: S.ガルベリン、V.ジムイホフ 振付: イーゴリ・モイセーエフ)

組曲「艦上の一日」の断片で、古くから伝わる水平の踊り歌「ヤーブロチコ(りんご)」を主題にしています。途中からバヤンの弾き手の登場とともに始まるのがその曲です。水兵の毎日は辛いことが多いのですが、彼らはいつも上機嫌です。

イーゴリ・モイセーエフ振付の躍動